海外だより

当研究室のメンバーである本学助教授玉井龍象氏は、現在イギリス留学中であるが、氏の活躍を述べた便りがこのほど届いた。ここにそれを掲載する。（編集部）

拝啓、皆様お元気のことと存じます。秋の爽やかな季節が訪れ、教育・研究の充実のため、ますますお忙しい毎日のことと思います。新学部増設のメドもそろそろつき始めた頃と思います。すべてにつき、テンポの早い日本のことが今更のように思い出されます。

私たちは、去る九月一五日、ロンドンに着いてから、英国での生活も、一カ月以上になりました。日本を発つ時は、残暑のきびしい頃でしたので、こちらへ着いた途端に、風邪をひき、医者にかかりましたが、今はどうやら治りました。

何しろ、お天気のことがこれ程、生活に結びついていることを、つくづく感じたことはありません。朝十時頃までは霧がかかり、昼頃太陽が顔を見せる始末です。こうした自然の営みに対抗するためか、英国人は老若男女を問わず、きわめて活発に運動をします。服装も地味で、消費物資の種類も少く、古い物を大事に使っています。すべて新しい物には軽辱の眼を注ぎかけるようです。そのくせ、こっそりと寝室でテレビを見ているのですから、愉快で、テレビと云わず、自動車、ラジオ等、貸物が多く、それも古い物を平気で乗り廻しています。この点は、私たちのような一時的滞在者には好都合です。早速古自転車を乗り廻しています。

経済学の方面では、アメリカで盛んな数量的経済学は、ケムブリッジでは貧弱で、意識的にそうした傾向にプロテストしているかにみえます。イギリスでは、計量経済学的な新しい経済学は、ロンドン・スクールが一番人材を揃えているといってよいでしょう。

特に、ケムブリッジは、現状批判的な傾向がつよく、アメリカからここに来ている研究者も、どちらかといえば、若干、進歩的好みを持っている連中のようです。去る一五日 Joan Robinson の Professor 就任講演会が行なわれ、全教員スタッフがガウンを着用（学生も勿論）して聞いていましたが、その話の中でも、経済学が moral science として誕生し、二〇年代、三〇年そして戦後、現実の世界政治経済の変化に、経済学、とくに、マーシャル、ケインズらのケムブリッジの経済学者がどのように対処してきたか、社会主義の経済に対してもいかに批判的研究を怠らないことが必要かといったことを話していました。また、昨日はアメリカの MIT の Research Student が報告者になって、「技術革新の内生的研究」というテーマの報告をしましたが、シャンパーノウン、ハーン、ロビンソン、パンネッティ等も出席し、報告者に対し、気の毒な位、代る代る質問ぜめで、ケチョンケチョンといった有様です。とりわけロビンソン女史は、普通の講義の時も、「自分の本の誤りを最初に発見したのは私自身である」といった皮肉を一時間に必ず一度は飛ばし、意気天を突く有様です。以上のことはロンドンのスタジオで日本向放送として去る十七日、私の話をケムブリッジの印象という題で放送しました（日本時間十月二七日午後八時短波放送）。

一般の講義は正味六〇分で週二回別の日に行なわれます。講義プランを教務委員宛に、近くお送りします。平均三〇～四〇名位が出席しています。Senior の学生と教官は皆ガウンを着て出席しています。朝九時から一時まで四種類の講義があり、夕方五時からゼミが行なわれます。午後二時半から大学院学生のゼミや、教官の研究会があります。私は、Dobb, Pasinetti, Robinson, Goodwin, Kaldor の講義には、今までずっと出ています。Mr. Dobb とは着いた時、挨拶傍々、一時間程話をしました。親切なお爺さんです。discussion をしようしようと盛んに云ってきます。二九日には、妻と一緒にランチを共にすることになっています。こちらは、何かと lunch に招待されたり、party によばれたりする機会が多く、この間も Visitor（私たちのような外国の大学の Professor でケムブリッジに来ている者をいう）約一〇名位が夫婦同伴で、Sherry Party に招かれました。Kaldor, Sraffa, Robinson, Cohen, Dobb 等も姿を見せており、彼らとはいずれ、ゆっくり議論しようと握手して毒にもならない世間話をしてニコニコ笑っていました。ポーランド、ソ連、オーストラリア、フィンランド、パキスタン、インド等からの Visitor が現在ここにいます。パキスタンとインドとの最近の衝突がこういった席でも微妙な形で感ぜられます。

また今日は、economists' wives だけの lunch party があり、私は出席する資格なく、妻だけ出かけました。その代り、来週は私だけが Mrs. Robinson と話をすることになっています。

学生問題としては、ここの学生は「質実剛健」といった言葉を思い出す位、よくスポーツをやり、質素な生活をしています。College はケムブリッジだけに二一あり、多少頭が悪くても、ボート、ラグビー等の選手は、尊敬されています。Dean という学長クラスの人がブルドック二人（一人は長距離、他は短距離ランナー何れも人間）を連れて、学生の風紀を取締っているとのことです。

一六日の国際ヴェトナム・デーには、ケムブリッジからもバスを借切でロンドンのアメリカ大使館にデモをしに出かけました。今夜は彼ら数人と話をするため、これから出かけます。ではまた。匆々